



2019年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年5月13日

上場会社名 浜松ホトニクス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6965 URL <https://www.hamamatsu.com/jp/ja/index.html>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 晝馬 明
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 森 和彦 TEL 053-452-2141
 四半期報告書提出予定日 2019年5月14日 配当支払開始予定日 2019年6月4日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2019年9月期第2四半期の連結業績（2018年10月1日～2019年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第2四半期	74,413	1.8	14,007	△6.2	14,350	△5.3	10,877	0.6
2018年9月期第2四半期	73,074	12.5	14,935	33.8	15,158	26.5	10,811	21.2

(注) 包括利益 2019年9月期第2四半期 8,850百万円 (△13.7%) 2018年9月期第2四半期 10,258百万円 (△17.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年9月期第2四半期	70.27	—
2018年9月期第2四半期	69.24	—

(注) 前連結会計年度末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2018年9月期第2四半期については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年9月期第2四半期	252,182	199,734	78.9
2018年9月期	244,914	193,985	78.9

(参考) 自己資本 2019年9月期第2四半期 199,037百万円 2018年9月期 193,317百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」を第1四半期連結会計期間の期首から適用したため、2018年9月期につきましては遡及適用後の数値を記載しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年9月期	—	17.00	—	20.00	37.00
2019年9月期	—	20.00	—	—	—
2019年9月期（予想）	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年9月期の連結業績予想（2018年10月1日～2019年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	146,300	1.4	26,100	△4.3	26,700	△4.9	20,200	△4.8	130.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年9月期2Q	165,011,568株	2018年9月期	165,011,568株
② 期末自己株式数	2019年9月期2Q	10,213,968株	2018年9月期	10,213,968株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年9月期2Q	154,797,600株	2018年9月期2Q	156,152,114株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(日付の表示方法の変更)

2019年9月期 第1四半期決算短信より、日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、輸出や生産において中国経済やIT関連需要の減速の影響がみられたものの、設備投資は増加を維持するなど全体としては緩やかな回復基調の中で推移いたしました。しかしながら、国際的な通商問題の影響や引き続き中国経済の減速が見込まれることへの懸念などがあり、景気の先行きは厳しい状況となっております。

このような状況におきまして、当社グループは、長年培ってきた光技術を活かした研究開発を推進するとともに、顧客ニーズに対応した製品開発に取り組むことで、売上高、利益の確保に努力してまいりました。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの経営成績につきましては、売上高は74,413百万円と前年同期に比べ1,338百万円(1.8%)の増加となりました。一方、利益面につきましては、営業利益は14,007百万円と前年同期に比べ928百万円(6.2%)の減少、経常利益は14,350百万円と前年同期に比べ808百万円(5.3%)減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益は10,877百万円と前年同期に比べ65百万円(0.6%)の増加となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

[電子管事業]

光電子増倍管は、計測分野におきまして、油田開発投資の回復を受け、高温や衝撃、振動などへの耐性に優れた油田探査装置向けの売上げが好調に推移いたしました。また、医用分野におきまして、血液分析などの検体検査装置向けもその高感度、低ノイズ、高速応答特性を評価されて売上げが増加いたしました。しかしながら、高エネルギー物理学実験等の学術向けの売上げが、海外における大型プロジェクトへの納入終了などもあり、減少いたしました。

イメージ機器及び光源は、産業分野におきまして、非破壊検査用のマイクロフォーカスX線源がその高精細かつ高い信頼性・安定性を評価されて国内外で売上げが好調に推移いたしました。また、シリコンウェハを高速・高品位に切断するステルスダイシングエンジンの売上げも増加いたしました。さらに、重水素ランプ等の環境分析用光源の売上げも堅調に推移いたしました。

この結果、電子管事業といたしましては、売上高は29,347百万円(前年同期比5.0%増)、営業利益は10,513百万円(前年同期比5.7%増)となりました。

[光半導体事業]

光半導体素子は、医用分野におきまして、主力のシリコンフォトダイオードが売上げを伸ばしました。しかしながら、半導体市場における設備投資抑制の影響を受け、半導体製造・検査装置向けのイメージセンサ等の売上げが減少いたしました。また、産業用ロボット等の制御などFA(ファクトリーオートメーション)分野におけるフォトダイオード及びLEDの売上げも減少いたしました。

この結果、光半導体事業といたしましては、売上高は33,457百万円(前年同期比2.0%減)、営業利益は10,416百万円(前年同期比7.7%減)となりました。

[画像計測機器事業]

画像処理・計測装置は、デジタルカメラが、生命科学やバイオ分野に加え産業分野における需要が増加し、売上げが増加いたしました。また、半導体故障解析装置が、広視野における高解像度・高感度に加え用途に合わせて多様な解析が可能な点を評価され、売上げを伸ばしました。さらに、X線ラインセンサカメラの売上げが食品検査用を中心に増加いたしました。

この結果、画像計測機器事業といたしましては、売上高は9,212百万円(前年同期比6.1%増)、営業利益は2,016百万円(前年同期比7.2%増)となりました。

[その他事業]

半導体レーザーに係る事業、子会社の㈱磐田グランドホテルが営むホテル事業及び子会社の北京浜松光子技術股份有限公司の独自製品に係る事業を含んでおります。

当セグメント(その他)の売上高は2,395百万円(前年同期比4.4%増)、営業損失は108百万円(前年同期は営業利益198百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

流動資産の主な変動は、未収入金（流動資産その他）が2,109百万円減少したものの、有価証券が3,438百万円、現金及び預金が2,670百万円それぞれ増加したことなどから、流動資産は前連結会計年度末に比べ5,692百万円増加しております。

固定資産の主な変動は、投資有価証券が774百万円減少したものの、有形固定資産が建設仮勘定の増加などにより1,842百万円増加したことなどから、固定資産は前連結会計年度末に比べ1,576百万円増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ7,268百万円増加し、252,182百万円となりました。

流動負債の主な変動は、賞与引当金が1,003百万円減少したものの、支払手形及び買掛金が926百万円、設備関係支払手形（流動負債その他）が742百万円それぞれ増加したことなどから、流動負債は前連結会計年度末に比べ1,518百万円増加しております。

固定負債の主な変動は、長期借入金が79百万円減少したものの、退職給付に係る負債が120百万円増加したことなどから、固定負債は前連結会計年度末に比べ1百万円増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,520百万円増加し、52,448百万円となりました。

純資産は、為替換算調整勘定が1,460百万円減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が7,775百万円増加したことなどから、当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ5,748百万円増加し、199,734百万円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ2,325百万円増加し、64,149百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は16,878百万円となりました。これは主として、税金等調整前四半期純利益及び減価償却費の計上などによるものであり、前年同期に得られた資金10,459百万円に比べ6,418百万円の収入増となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は10,838百万円となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出6,002百万円、有価証券の取得による支出3,441百万円などによるものであり、前年同期に使用した資金2,891百万円に比べ7,947百万円の支出増となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は3,053百万円となりました。これは主として、配当金の支払額などによるものであり、前年同期に使用した資金12,958百万円に比べ9,905百万円の支出減となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年9月期通期の連結業績予想につきましては、当社が事業展開している市場環境と直近の業績動向等を踏まえ、当社グループの業績予測を精査した結果、2018年11月12日付けで公表いたしました連結業績予想を、次のとおり修正いたします。

なお、業績予想の前提となる下半期（2019年4月1日～2019年9月30日）の為替レートにつきましては、1米ドル＝105円、1ユーロ＝125円を想定しております。

通期連結業績予想（2018年10月1日～2019年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	150,400	27,500	28,000	21,200	136.95
今回修正予想 (B)	146,300	26,100	26,700	20,200	130.49
増減額 (B - A)	△4,100	△1,400	△1,300	△1,000	—
増減率 (%)	△2.7	△5.1	△4.6	△4.7	—

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	74,458	77,129
受取手形及び売掛金	35,914	36,363
有価証券	—	3,438
商品及び製品	8,874	9,317
仕掛品	17,933	18,145
原材料及び貯蔵品	7,677	8,292
その他	5,501	3,373
貸倒引当金	△162	△170
流動資産合計	150,197	155,889
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	34,117	33,886
機械装置及び運搬具(純額)	12,364	12,129
工具、器具及び備品(純額)	4,359	4,592
土地	16,789	16,806
リース資産(純額)	272	258
建設仮勘定	3,826	5,899
有形固定資産合計	71,730	73,572
無形固定資産		
顧客関連資産	2,634	2,432
その他	3,644	3,354
無形固定資産合計	6,278	5,787
投資その他の資産		
投資有価証券	4,158	3,384
繰延税金資産	10,254	10,657
その他	2,314	2,910
貸倒引当金	△19	△19
投資その他の資産合計	16,708	16,933
固定資産合計	94,717	96,293
資産合計	244,914	252,182

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,101	6,027
電子記録債務	6,266	5,701
短期借入金	1,662	1,840
1年内返済予定の長期借入金	3,178	3,163
未払法人税等	2,892	3,243
賞与引当金	5,138	4,134
その他	13,838	15,485
流動負債合計	38,078	39,596
固定負債		
長期借入金	3,512	3,432
厚生年金基金解散損失引当金	529	525
退職給付に係る負債	7,393	7,514
その他	1,414	1,379
固定負債合計	12,850	12,851
負債合計	50,928	52,448
純資産の部		
株主資本		
資本金	34,928	34,928
資本剰余金	34,672	34,672
利益剰余金	142,321	150,097
自己株式	△20,795	△20,795
株主資本合計	191,126	198,902
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,545	936
為替換算調整勘定	1,259	△201
退職給付に係る調整累計額	△614	△599
その他の包括利益累計額合計	2,190	134
非支配株主持分	668	696
純資産合計	193,985	199,734
負債純資産合計	244,914	252,182

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
売上高	73,074	74,413
売上原価	35,414	36,255
売上総利益	37,659	38,157
販売費及び一般管理費	22,723	24,150
営業利益	14,935	14,007
営業外収益		
受取利息	77	129
投資不動産賃貸料	44	43
為替差益	77	—
持分法による投資利益	53	101
その他	233	319
営業外収益合計	486	593
営業外費用		
支払利息	32	27
不動産賃貸費用	60	69
為替差損	—	87
自己株式取得費用	103	—
その他	66	65
営業外費用合計	264	250
経常利益	15,158	14,350
特別利益		
固定資産売却益	11	26
特別利益合計	11	26
特別損失		
固定資産売却損	52	0
固定資産除却損	13	17
投資有価証券評価損	—	9
災害による損失	201	—
厚生年金基金解散損失引当金繰入額	534	—
特別損失合計	800	27
税金等調整前四半期純利益	14,369	14,349
法人税等	3,525	3,429
四半期純利益	10,843	10,919
非支配株主に帰属する四半期純利益	31	42
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,811	10,877

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
四半期純利益	10,843	10,919
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	293	△609
為替換算調整勘定	△944	△1,475
退職給付に係る調整額	63	14
持分法適用会社に対する持分相当額	2	1
その他の包括利益合計	△584	△2,069
四半期包括利益	10,258	8,850
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,205	8,821
非支配株主に係る四半期包括利益	52	28

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	14,369	14,349
減価償却費	5,091	5,623
賞与引当金の増減額(△は減少)	△645	△983
受取利息及び受取配当金	△100	△155
支払利息	32	27
持分法による投資損益(△は益)	△53	△101
売上債権の増減額(△は増加)	△2,147	△1,028
たな卸資産の増減額(△は増加)	△619	△1,693
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,972	772
その他	540	3,203
小計	14,494	20,013
利息及び配当金の受取額	100	153
利息の支払額	△32	△27
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△4,102	△3,260
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,459	16,878
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(△は増加)	7,810	△379
有価証券の取得による支出	—	△3,441
有形固定資産の取得による支出	△6,724	△6,002
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△3,922	—
関係会社出資金の払込による支出	—	△694
その他	△54	△320
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,891	△10,838
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△24	199
長期借入金の返済による支出	△97	△94
自己株式の取得による支出	△10,103	—
配当金の支払額	△2,680	△3,114
その他	△53	△44
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,958	△3,053
現金及び現金同等物に係る換算差額	△359	△661
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△5,749	2,325
現金及び現金同等物の期首残高	63,385	61,824
現金及び現金同等物の四半期末残高	57,636	64,149

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	電子管	光半導体	画像計測機 器	計				
売上高								
外部顧客への売上 高	27,941	34,157	8,681	70,780	2,293	73,074	—	73,074
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	783	403	5	1,192	310	1,502	△1,502	—
計	28,725	34,560	8,686	71,973	2,603	74,576	△1,502	73,074
セグメント利益	9,943	11,282	1,880	23,106	198	23,304	△8,369	14,935

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、半導体レーザーに係る事業、子会社の(株)磐田グランドホテルが営むホテル事業及び子会社の北京浜松光子技術股份有限公司の独自製品に係る事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△8,369百万円には、セグメント間取引消去△675百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△7,694百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び基礎的研究費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	電子管	光半導体	画像計測機 器	計				
売上高								
外部顧客への売上 高	29,347	33,457	9,212	72,017	2,395	74,413	—	74,413
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	653	560	84	1,297	419	1,717	△1,717	—
計	30,000	34,018	9,296	73,315	2,814	76,130	△1,717	74,413
セグメント利益又は 損失 (△)	10,513	10,416	2,016	22,945	△108	22,837	△8,830	14,007

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、半導体レーザーに係る事業、子会社の(株)磐田グランドホテルが営むホテル事業及び子会社の北京浜松光子技術股份有限公司の独自製品に係る事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△8,830百万円には、セグメント間取引消去△734百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△8,096百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び基礎的研究費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。